

認定NPO法人  
はっぴい・はっぴい

幸せさがしに出会いの場を提供し、婚活の手助けを12年間にわたり活動。公益性が高い団体とする熊本県の認定NPO法人として、少子化対策及び高齢者福祉に一役。登録制により、婚活(若者、ミドル、シニア)パーティー、ファイル閲覧、紹介見合いを定期的を開催中。



大津・菊陽町長、合志市長参列の総会の様子

NPO法人  
菊池公園歴史の森

「NPO菊池公園歴史の森」は中世山城跡にある菊池公園の隣接地の放置竹林を伐採し、桜・モミジ・ケヤキ等を植樹し、公園と一体となった良好な景観を形成することにより菊池の観光振興の一助となる活動を行っている。

また、植樹にあたっては高校生や中学生と協働で作業を行うことにより、青少年の地域愛の醸成が図れるような工夫を行っている。

今後も良好な景観を保持するため、定期的な下草刈りや植樹等を行っていく予定である。



令和2年3月末 菊池市役所屋上から撮影  
賛助会員の皆様の協力で、約1 haの竹林跡に桜・モミジ等の植栽を行いました、特に友好都市奄美大島の龍郷町から頂いた寒緋桜が来春から咲きます。



公益財団法人  
島田美術館

剣豪宮本武蔵終焉の地熊本にある「島田美術館」。

この美術館は、あるひとりの故実研究家の遺志により郷土熊本の歴史と伝統を語り継ぐよすがを後世へ伝える場として1977年に設立されました。肖像画をはじめとする宮本武蔵ゆかりの書画や武器・武具、加藤清正や細川家関係資料など肥後熊本を中心とした古典美術工芸をコレクションし、その保存・研究・展示を行っています。

また近現代の諸作分野にも活動域を拡げギャラリーを併設し、より充実した伝統文化の継承、地域文化の向上発展になお一層寄与する努力を重ねています。

この美術館を通じた社会貢献に、皆さまのご支援をお願いいたします。

島田美術館



島田美術館 正門

---

特定非営利活動法人  
熊本消費者協会

平成元年、専門的知識を持った消費生活アドバイザー、消費生活専門相談員、消費生活コンサルタントなどが、消費者の自立支援を目的に設立。以後30年間、消費者問題に取り組み、平成29年には、熊本地震時の緊急対応が評価され、消費者支援功労者表彰の内閣総理大臣表彰を受けました。

近年インターネットの普及に伴い、消費者トラブルはますます多様化・複雑化し、消費者を取り巻く環境は大きく変化、食品の安全性や食品ロス、海洋プラスチックごみの環境問題など解決すべき問題は山積みです。

こうした中で消費者の自立や主体性の確立が強く求められ、SDGs時代の消費者団体の活動に、より大きな期待が寄せられています。

現在、消費者の権利を確保するための支援活動として消費者相談、高齢者や若者を対象とした消費者教育講座の開催、調査活動、情報の提供などを行っています。行政、業界、消費者の連携の中で、「安全・安心な消費者の時代」を目指して、消費者団体としての社会的役割を果たすための努力を続けております。



地域見守りサポーター養成講座  
のグループワーク

---

NPO法人  
せいしとらんし熊本

「誰ひとり性加害者にも性被害者にもさせない！」

せいしとらんし熊本は、性教育学習事業を行う非営利活動法人です。主として、性犯罪予防のための教育と啓発活動を行っています。幼児・小学生の親子参加型の「いのちの学習」をメインに活動していますが、PTA講演会などでは「子どもの性への向き合い方」をお話したり、大人を対象とした性教育の学び直しを提供したりと、この世に生きるすべての人を対象にした性教育学習事業を展開しています。

その他、性的問題を抱える子どもたちの治療プログラムにも参加し、その中で見えてきた社会的課題にも目を向け、時代やニーズに合った【いのちの学び】を届けています。誰ひとり性犯罪の当事者にしない!という強い思いのなかで、行政や学校と連携をとりながら活動を広めていきます。



親子対象性教育講座の風景

特定非営利活動法人  
山鹿きぼうの家

—精神障がい者等の生活を支援しています—

①障がいを持ちながら山鹿市やその近郊で生活している方へ、昼間の活動の場（居場所）を提供し、軽作業などを通じて仲間と触れ合うことにより、社会との繋がりを生活のリズムを整えることを支援しております。

②利用者の高齢化が進む中で、親なき後の単身生活を支えたいと、2年前から昼食の提供を始めました。

市からの地域活動支援センター事業委託費のみでの運営が厳しいので、ご支援をお願いします。



フルーツキャップの  
袋詰め作業の様子

NPO法人  
幸（しあわせ）サポート

2015年に設立し地道に婚活セミナー、個人面談会、婚活パーティを開催し熊本県の少子化を少しでも止めるのと、県民の幸せを応援しようとスタッフ17名で頑張っております。

おかげで昨年度より現在交際をされているカップルは10組、結婚まで進んだカップルは4組になっております。いただいた寄附金は出会いのための個別相談サロン開設、更に充実した運営経費に活用したいと考えております。



婚活セミナー風景

NPO法人  
熊本県海難救助隊

本隊は、国内では3番目に当たる昭和48年6月に発足し、約47年間活動を続けています。隊員は現在35名、パトロール艇13隻です。

又、県内には海上保安庁より指定を受けた海上安全指導員が26名いますが、その内隊員は半数以上の17名在籍しています。活動は県内の八代海・有明海において海難事故を未然に防止するため、海上安全に関する啓発活動としてチラシ配布、ライフジャケット着用の指導や海上安全パトロールを行っています。

また、豊かな海洋環境作りと、きれいな海を未来に残すために、海水浴場や港湾の清掃ボランティア活動、将来のシーマンリーダー育成事業として毎年夏休みに小中学生を対象にした体験クルージング・航海訓練も実施しています。

近年では、八代港における大型クルーズ客船の海難事故を未然に防ぐため、早朝5時頃より客船の前路警戒とパトロールを行ない、微力ながら海上の安全と併せてクルーズ客船へのおもてなしも行っていきます。

隊員は、小型船舶免許はもとより、海上安全指導員、看護師、海上特殊無線技士、アマチュア無線技士、工事作業の警戒船業務・管理講習受講者、スクーバー、潜水士等の資格保有者が多数在籍し、日々研鑽しています。



安全啓発パンフレット配布の様子

---

NPO法人  
RyuSun

NPO法人RyuSunの主な活動  
NPO・ボランティア協働センターの管理・運営

『くまもと県民交流館パレア』の指定管理者としてパレアルーム（NPO・ボランティア協働センター）の管理・運営を行っています。熊本県所轄のNPO法人の活動支援として、設立相談、報告書の受付、セミナー開催、講師派遣等の業務を担っています。

国際交流推進事業

異文化交流ほど楽しく多くを学べる体験は他にないをモットーに国際交流を進めています。特にカナダ、ロシアに強いパイプを築いており、熊本と海外の人と文化、経済の交流の架け橋になる国際交流推進事業を行い、人々の豊かなコミュニティ醸成に寄与します。

空手道場の運営

空手道場『輝竜館』の運営を通じて、青少年育成とすべての年代が一緒に学ぶコミュニティの形成を図ります。3年毎に開催される宗家杯世界大会が楽しみです。



NPO法人RyuSunの  
メンバーです

---

NPO法人  
宇城市環境保全隊

NPO法人宇城市環境保全隊は設立15年目を迎え、市内の不法投棄パトロール・草刈清掃・ボランティア清掃活動・ゴミ拾い・河川の清掃など日々宇城市の環境美化保全のために活動しています。不法投棄ごみは毎年約1.5トンの回収量です。

会員を募り、会費を頂き運営活動していますが会員の減少により活動が制限されている現状です。宇城市の環境保全の為、様々なプロジェクトを立ち上げ住み良いまちづくりを行っています。

まず、耕作放棄地や休耕田にヒマワリの種や菜の花の種をまき、地球温暖化の原因である二酸化炭素を吸収させ温暖化防止活動を展開します。そして、ゴミのないきれいな宇城市にすることを目標に一生懸命に取り組んでまいります。



不知火海岸清掃活動の様子

---

---

一般社団法人  
Arts and Sports for Everyone

私たちの団体は、障害のある人もない人も日常的に芸術やスポーツ活動と一緒に楽しめる共生社会の実現をミッションにしています。

具体的な活動としては、

- ① 障がい者スポーツのボッチャの体験会を学校、商店街、イベント、老健施設などで随時開催することで、市民の方々に障がい者及び障がい者スポーツの理解をしていただいています。
  - ② 特別支援学校や学級で学んでいる皆さん、およびスペシャルオリンピックスのアスリートを対象としたボッチャの大会「楽球甲子園」を開催し、障がいのある方同士の交流を図っています。
  - ③ 障がい者のファッションショーKumamoto Smile Collectionを開催し、障がいのある皆さんにおしやれを通して自己表現をする場を提供しています。
  - ④ COVID-19の影響で販路が減り、経営難に陥っている障がい者支援施設が第二波、第三波にも負けずに経営していくための研修としてオンラインセミナーを開催しています。
- その他、障がい者及び障がい者の芸術やスポーツ活動を知っていただくために、フォーラムやトークショーを不定期に開催したり、芸術やスポーツ活動に取り組む団体の支援をしています。



『特別支援学校・学級、スペシャルオリンピックスの皆さん対象のボッチャ大会「楽球甲子園」に参加した皆さん』

---

NPO法人  
くまもと文化財プロジェクト

私たちは、日本文化の継承のために、熊本に遺された貴重な絵画文化財を護り、活かしていく活動に取り組んでいます。

現在取り組んでいるのは、江戸時代に参勤交代で使用されていた御座船「波奈之丸」（重要文化財「細川家舟屋形」）天井画の復元模写事業です。御用絵師らによって描かれた、金箔の輝く煌びやかな天井画171枚が現存していますが、それらは熊本の貴重な絵画文化財でありながら、舟屋形内部にあるため公開が難しく、市民にもあまり知られていません。

そのため私たちは、実物が描かれた当初と同じ素材・同じ技法により、肥後の草木花果が描かれた天井画 全171枚を完全復元模写し、広く県民に公開していく活動を3年計画で始めました。昨年秋のクラウドファンディングと寄付で金箔や顔料など画材代の資金は調達。今回はその展示のため、格天井を模した黒塗りの木枠に実物と同様、九曜紋の鍍金細工を施した飾り金具の仕様を予定しています。

ふるさとを想う皆さまのご支援を、後世に繋がる新たな文化財として、また、熊本城天守閣の復旧にも花を添えられるような展覧会を実現させたいと願っています。どうぞ宜しくお願いいたします。



波奈之丸(なみなしまる)内部・天井画

---

認定特定非営利活動法人  
スペシャルオリンピックス日本・熊本

スペシャルオリンピックス（SO）は、知的障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じ提供している団体です。

SOはスポーツ活動を通して知的障がいのある人たちが地域で生き生きと暮らしていける社会を目指しています。熊本県内各地域（ブランチ）でも活動しています。



バスケットボール地区大会の様子

---

NPO法人  
オハイエくまもと

「NPO法人オハイエくまもと」は、障がいのある人もない人も一緒になって音楽やダンスを楽しむ、音楽の力で心のバリアフリーを目指すボランティアグループです。日頃は音楽やダンスが大好きなパフォーマー（主に知的・発達障がいのある人たち）に楽器演奏や歌、踊りを練習する場を提供し、音楽指導者が指導しています。その発表の場として年に1回、街の中心地などで道行く人も巻き込んで一緒に音楽を楽しむ「とっておきの音楽祭」を開催しております。

【使命】

1. NPO法人オハイエくまもとは、知的・発達障がいのある人たちを中心に、それぞれの地域で日常的に音楽（楽器演奏、歌、踊り）を練習し楽しむ場を提供します。
2. NPO法人オハイエくまもとは、知的・発達障がいのある人たちを中心とした日常的な音楽活動の発表の場として、あらゆる障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、心のバリアフリーを目指す「オハイエくまもと とっておきの音楽祭」を開催します。



オハイエくまもととっておきの音楽祭は、障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しむ場を提供し、音楽の力で心のバリアフリーを目指す事を目的に開催しています。会場は熊本市街地（主に屋外）で、道行く人達とのふれあいの場所とし、それぞれの団体がダンスや歌、演奏を披露します。

---

NPO法人  
トナリビト

児童養護施設・里親から巣立つ若者や、家庭から支援を得られない若者たちの自立を支援したい！この熊本にも、親と暮らせず施設で育つ子や、様々な事情で家に帰れない若者がいることをご存じですか？

NPO法人トナリビトは、すべての子が「自分は愛されるために生まれた！」と思える未来を目指し、家庭に事情を抱えるユース（子ども・若者）の支援を行っています。皆様から頂いた寄付を活用し、特に児童養護施設退所者や福祉の狭間で支援が得られず孤立化する若者を対象に、『自立支援シェアハウスIPPO』の運営や、居場所の提供、就労支援、相談窓口の設置などの支援プログラムを実施します。

【事業内容】

①自立支援（生活訓練、シェアハウス・居場所スペース・シェルターの運営）、②学習支援、③就労支援、④普及啓発、⑤支援者育成、⑥その他、親を頼れない若者を対象とした生活用品の支援、一人暮らし支援品のプレゼント、成人式の前撮りをプレゼントする「KIMONOプロジェクト」等を企画開催しています。



「自分は愛されるために生まれてきた！」  
すべての子がそう思える未来を目指して



---

公益財団法人  
阿蘇地域振興デザインセンター

阿蘇地域の自然環境と景観を守りながら、地域づくりを行う組織として、平成2年5月に設立しました。

阿蘇管内7市町村および上益城郡山都町（旧蘇陽町）が一体となり、地域振興、観光振興、環境・景観保全、情報発信など、公益認定を受けた以下の事業（公1～公3）に取り組んでいます。

公1「豊かな自然による世界ブランドの確立  
～阿蘇草原の維持・再生～」

- ア. 草原再生PR事業
- イ. 野焼き支援事業
- ウ. 阿蘇産品の振興
- エ. 世界ブランド事業の推進

公2「地域の元気再生による地域力向上」

- ア. 地域元気再生支援事業
- イ. 的確な情報の発信
- ウ. 阿蘇回帰運動への取り組み
- エ. 人材育成事業

公3「広域連携による競争力のある観光地づくり」

- ア. 新たな阿蘇資産の構築・推進
- イ. 広域連動型観光まちづくり事業



阿蘇地域の風景

---

NPO法人  
くまもと未来ネット

1994年にスタートした環境ネットワークくまもと（後にNPO法人くまもと未来ネットへ発展的改組）のコンセプト&ミッション（目的と社会的使命）は、当時の地球環境問題を観ながら足元である熊本の地域環境問題に取り組むものでした。

あれから27年が経ち地球環境も更に悪化して来ました。また科学技術（テクノロジー）の進化は利便社会をもたらした反面、新たなる社会問題を多様に提起しLocalなテーマである“地域創生”へのコンセプト&ミッションと手法が問われる様になって来ました。

そんな中、地球全体で2016年から提案されたのが、“SDGs（Sustainable Development Goals：2030年までの地球の持続可能な開発のための17のゴール）”であります。SDGsには、大きく地球的（Global）なテーマとAgenda（行動計画）そして、Local Agenda（地域的な行動計画）があります。つまり、総合的な視点と行動計画のポイントは、“Glocalグローバル（Global+Local）”な行動であります。

これらを整理し新たな提言として、くまもと未来ネットでは、これまでに4回にわたりまとめて来た提言（Glocal Agenda）の更新再販を目指して、フォーラムやワークショップ等開催して行きます。そのための事業費集めにどうぞ、ご協力下さいませ！



第1号市民共同発電所の前にて

---

一般財団法人  
くまもとSDGs推進財団

私たちは熊本地震を経験し、その中でそれぞれの正義感を抱き、1日も早いその復興のために力を尽くしてきました。全国、そして世界からも本当に多くの物資や資金が集まり、その復興の後押しになりました。しかし、その中で抱いた疑問もあります。「言葉をあげることでできない、泥臭く、地道に活動している人・団体にどれだけの資金が届いたのか」として、「どれだけ生きてお金になったのか」ということです。

熊本には根強い地域課題が沢山あります。そして、熊本地震で顕在化したものや、これから深刻化していく社会問題も山積みです。これから熊本で未来を生きていく私たちが向き合わなければならない課題・問題はまだまだ沢山あるのです。

熊本地震での反省を踏まえ、私たちには地域課題を効果的に、そして着実に解決するための資金循環の仕組みが必要です。その資金循環を担っていくのが”コミュニティ財団”である当財団法人です。

地域の課題解決のための資金循環。そして、熊本に必要な、熊本らしいその仕組みづくりにご協力、ご賛同のほど何卒よろしく願いいたします。



設立シンポジウムにて

---

特定非営利活動法人  
NCK

当法人は、熊本市東区で重症心身障がい児を対象とした通所支援事業（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業）、また相談支援事業を展開しています。看護師による医療的ケア（服薬管理や体調管理等）や機能訓練担当職員によるハビリテーションを行い、生活面や余暇活動のサポートを行っています。特にスヌーズレンやコミュニケーションツールの活用に力を入れており、関係機関と連携を取りながら障がいのある方の社会参加を支援しています。



施設：エイムズ小山



部屋の様子  
スヌーズレン

---

特定非営利活動法人  
九州バイオマスフォーラム

私たちの身近にある資源を有効活用することは、地球温暖化対策や持続可能な社会の形成にとって大切です。阿蘇地域には豊かな森林資源や、広大な草原の草資源があります。NPO法人九州バイオマスフォーラムでは、バイオマスの普及を目指し、これらの資源の利活用を進めてきました。

森林整備の過程で発生する間伐材や、建築材として利用できない雑木（時には災害木）などを森林組合や林業事業者から買い取り、薪に加工し販売しています。また、間伐材を利用し、会員や地域住民に向けた薪割り体験イベントを実施しています。

また、草原保全の担い手を育てることを目的とし、主に地元の小学生を対象に、阿蘇の草原が危機に瀕している現状や、草原保全のための課題について共に考える場を提供する体験型草原環境学習を行っています。

地域の特長を生かした資源循環型の仕組みを作ることで、環境保全（草原景観や森林）と地域経済の活性化（観光・農畜林産業）の両立に貢献していきます。

頂いた寄附は、薪生産や草原環境学習に必要な備品の購入やイベント等の運営費用に使わせて頂きます。



薪割り体験イベントの様子

---

特定非営利活動法人  
植物資源の力

私たちの活動拠点は、かつて地域全体が水俣病で痛めつけられた水俣市袋地区である。山、源流から河口までの川があり、地域の中心に位置する袋湾には、絶滅危惧種が生息する。他地域と同様に年々、過疎高齢化は深刻になってきている。私たちは、国内外から高校生以上の中長期間のボランティアを募り活動してもらおう事で、地域にアプローチをしている。不要材となっている竹の伐採、炭化、援農、祭等の地域行事、学校行事への参加をする。その事によって、地域、地域住民が元気になる。世代を問わず良い刺激になっているようだ。

生態系をコンパクトにまとめたような地域全体を使った袋中学校体験型環境学習「海学校、山学校、川学校」は行われる。この地域で育つ子供たちに知識だけではなく、Sense of wonder 感性を育む場を提供するのは、大人の責任なのだとも考えている。深刻化する環境問題は、データにも経験則にも頼れない状況となっている。ムヒカ元大統領の言葉「人生で一番大事な事は、成功する事じゃない。歩む事だ。」SDGsを実現させていくには、人を育てて行くしか方法はないのだと考えるからである。さらに、その輪がもっと広がったら良いと夢を描いて活動している。



竹の間伐を行うボランティアたち

---

NPO法人  
KP5000

私たちKP5000は、「熊本県の県内で働く障がいのある方を5000人に増やしたい」という想いを実現するために立ち上げた団体です。2012年に3人の有志で始めた活動は、たくさんの方のご協力に支えられ2019年に法人化しました。NPO法人取得後は、障がいのある方の支援だけでなく、障がい者をサポートする障がい福祉施設で働く方々が、自分たちの仕事に誇りを持ち楽しんで活動するための応援をしています。

この街に暮らす誰もが、「生まれてきて良かった」と自分の人生を笑えますようにと願いを込めて、一人ひとりが輝く舞台をつくり続けていきます。



熊本県内の企業で働く障がい者の方々がもっともっと増えますようにと紙飛行機に願いを込めたロゴマークです

一般社団法人  
熊本県サッカー協会

「サッカーを通して豊かなスポーツ文化の振興に寄与し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。」

「する人が楽しめるサッカー・見る人が感動できるサッカー・支える人が喜べるサッカー」を基本方針に、次の事業を行っています。

(1) 競技力向上（各年代における競技人口割合増加につとめ、国際的に活動できる選手の輩出に努めます。）

(2) 人材育成（女子の指導者育成を積極的に支援します。）

(3) 生涯スポーツの促進と地域との連携（キッズや女子の普及・育成を進め、シニア層の活動の場を広げます。）

(4) 環境整備（フットボールセンター建設を進めています。）

集まったご寄付は、キッズや女子の普及・育成に関連する事業に活用させていただきます。



一般社団法人熊本県サッカー協会公式ロゴ

NPO法人  
NEXT EP

認定NPO法人NEXT EPは熊本県合志市に拠点を置き、子どもたちを支える各種事業を実施しています。

重度の障がいや病気を抱えた子どもとその家族をサポートする「小児在宅支援事業」、不登校児をサポートする「わくわく農作業体験」、若者の就労をサポートする「久遠チョコレート熊本」「就労継続支援A型事業」といった幅広い支援を行っています。

これからも、すべての子どもたちが笑顔で輝くことのできる地域社会を作っていけるよう、支援の幅を広げていきます。



NEXT EPホームページロゴ

特定非営利活動法人  
NPO子どもサポート・みんなのおうち

2005年1月に設立した菊池郡大津町の子育て支援NPOです。「子どもが大切にされている実感を持てる社会の実現」を目指し活動しています。学童保育クラブ・小規模保育園・子育て支援センター・子どもの居場所づくりの4事業を軸に、子どもたちと喜怒哀楽の日々をすごしています。

ご支援のほどよろしくお願いいたします。



子どもたち ひとりひとりの 笑顔のために

---

NPO法人  
犬猫ケアホームきずなの丘

熊本県阿蘇郡西原村。当団体は阿蘇の雄大な自然に囲まれた素晴らしい場所にあります。”行き場のない犬猫たちを1頭でも多く救いたい”同じ思いを持つボランティアさん達の力を借りながら、日々活動をしています。

犬猫たちの元気に生きる姿を通してたくさんのパワーをもらい、それが私達の活動の原動力にもなっています。人と動物の共生を目指し、両者をつなぐ場所であり続けること。それが動物愛護分野における当団体の役目だと思っています。

より多くの方に私達の活動を知ってもらい、動物愛護について考えるきっかけとなってくれることを願います。



日向ぼっこ きずなの丘にて

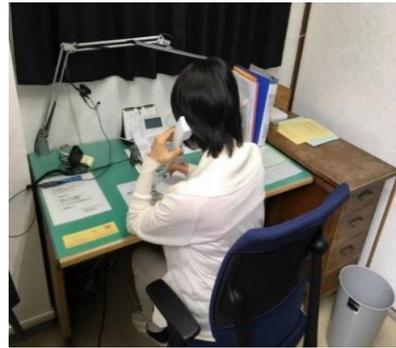
---

社会福祉法人  
熊本いのちの電話

「熊本いのちの電話」は様々な問題を抱えて孤独と不安に苦しみ、生きる力を失いかけている人々に、「電話」を通して対話することにより、生きる意欲を自ら見い出せるよう心の支えになることを願うボランティア活動です。

24時間365日、休むことなく電話相談を続けています。この活動は無報酬の電話相談員90名の献身的な奉仕活動によって支えられています。

しかし、相談員養成費や研修費、事務局の経費など多額の運営費が必要となり、厳しい財政運営を強いられています。この運営費は法人、個人の寄附でまかなわれており、皆さまの温かいご支援をお待ちしています。



電話相談室で相談を受けている様子

---

---

NPO法人  
A-lifeなんかん

◆キャッチフレーズは「広がる未来 つながる地域」◆

「いつでも・どこでも・だれでも」スポーツに楽しめる環境の実現を目指しています。子どもから高齢者まで幅広い世代の人々が、それぞれの興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツに触れる機会を提供する地域スポーツクラブを原点として、地域の皆さんと共に地域社会の連携と明るく豊かな生活の実現に向けた取り組みのお手伝いをしています。

平成24年に法人設立。南関町におけるスポーツ団体等を統括し、南関町民及び町外の住民に対して、運動や住民の触れ合いの場の創出、健康増進、体力の向上及びスポーツ文化の振興などを通じて持続可能な地域の発展に貢献することを目的に活動しています。

◆寄付金を次のことに役立てます◆

- ①地域の子どもの健やかな体づくりを支えるスポーツ環境の整備（共用スポーツ用具の購入、練習着製作費など）
- ②障がい者・障がい児が自分の住む地域でスポーツに親しめる環境の整備（共用スポーツ用具の購入、専門講師の招聘費用、地域指導者の研修費用など）



老若男女が健やかに支え合う人生をイメージ

---

特定非営利活動法人  
おーさあ

熊本県が推進する「地域の縁がわ」のモデル事業として、地域に根差した共生型多機能福祉施設「健軍くらしささえ愛工房」を運営。「おーさあ」はデンマーク語で「～も（一緒）」「～も（また）」という意味の“ogsaa”をもとにした造語で、ノーマリゼーションの理念が込められており、赤ちゃんからお年寄りまで、年齢や性別、障害の有無に関わらず誰もがその人らしく暮らしていける地域づくりを行っています。高齢、障害の介護事業、地域型保育園、喫茶、配食サービス、健軍商店街の惣菜店の運営のほか、若者、生活困窮者、ひきこもりの支援事業を行政より受託。これらの事業をワンフロアで行っている事業所は全国的にも珍しく、県内外から多くの方が視察に訪れます。

支援事業では、子ども食堂やフードバンクとの協働による食糧支援、就職用品貸与、無料職業紹介所による求人開拓等、制度の枠に捉われない独自の支援を展開。また、支援対象者や近隣の中学校、支援学校の職場体験や地域ボランティアの受入を積極的に行い、様々な地域課題に取り組んでいます。

熊本地震、豪雨災害で減少していく地域の縁がわの再生のため、県内580か所の縁がわの拠点づくりにも力を入れ取り組んでいます。



「地域の縁がわ」での交流の様子

---

---

## NPO法人 キッチンるば

「ひとり社会」が進む現代。困っているけど、誰にも知られず、声を出せない人がいます。

子どもからお年寄りまで、食事をとりながら集う場所を創ることで、私達の周りにある孤独や孤立を減らし、誰もが安心して健康な生活を送れるようになることを目標に活動を始めました。

「るば」とはフランス語で食事を意味する言葉です。

食事は、生きていくために欠かせないもの。そして、誰かとテーブルをともにすることで、コミュニケーションが生まれ、喜びや安らぎ、そして充足感などを得ることができ、豊かな人生を送る上でかけがえのないものです。

この「食のちから」を足掛かりに、みんなが気軽に集え、安心感を得られる、そして世代間の交流も交え、集まったみんなが他の人の支援者にもなりながら助け合い、それぞれが抱える課題の解決に努める、そんな温かい居場所（＝地域の縁がわ）づくりに取り組んでいます。

具体的には主に次の活動を実施しています。

- ・子ども食堂「まなびば・たまな」（食事付き学習会）
- ・おうちカフェ「おとな食堂」
- ・認知症カフェ「カフェからふる」
- ・総合環境教育・赤ちゃんの駅
- ・ファミリーサポーター支援



ある日の食事風景

---

## 特定非営利活動法人 ブリッジフォースマイル

私たち認定NPO法人ブリッジフォースマイルは、2004年のNPO設立以来17年にわたり、児童養護施設や里親家庭等から社会に巣立つ子どもたちへの自立支援活動を行っています。

親を頼れず、18歳で自立を迫られる子どもたちに対して、彼ら自身の意思を主にし、できることを支援し寄り添っていくという方針で、キャリア支援や施設退所後のつながりを中心に、多くの支援プログラムを実施してきました。

児童養護施設や里親家庭の皆様、地域の様々な支援組織や専門家と密な連携をしながら、多くの地域ボランティアのみなさんの支えにより活動を推進しています。

熊本県では2019年4月から本格的に事務局を置き活動を開始し、2021年1月より、拠点・事務所を熊本市中央区辛島町にオープンし、居場所運営も行っています。

これからも社会的養護下の子どもたちにより良い支援を行うため、それぞれの特長・専門性を持つ社会資源にも積極的に橋渡し（ブリッジ）し、子どもたちがどんな環境で生まれ育っても、夢と希望を持って笑顔（スマイル）で暮らせる社会を目指して活動してまいります。



居場所かたるベースくまもとにて、  
スタッフ、ボランティア大募集！

---

特定非営利活動法人  
自立のひまわりパン工房・カフェ

就労継続支援B型施設として、障がいのある人達とパンの製造販売を主な仕事としています。パンの製造販売のみならず、パンの製造に使用できる野菜やハーブ類を、自家農園で地域の農家の方々の協力を得て、育成し収穫しています。



ひまわりパン店舗兼作業所

---

特定非営利活動法人  
優里の会

児童虐待など様々な理由により家庭で暮らせなくなり、社会的養護を必要とする子ども達が家庭・地域社会で生まれ、自立した社会の一員となるのが当会の事業であり、その広報・啓蒙活動を目的に活動しています。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

家族と暮らせない子どもたちは全国に約45,000人、熊本には約630人います。そのような子どもの約13%が里親と暮らしています。もっと里親を増やし、すべての子どもたちに温かな家庭を提供したい、それが優里の会の願いです。



パネル展の様子

---

一般社団法人  
熊本私学教育支援事業団

熊本私学教育支援事業団は、現在、公立・私立の学校の不登校・ひきこもりで悩む子どもたちの学習支援・生活支援を行う「熊本学習支援センター」を設立しました。

このコロナ禍、学校に行けない子どもたちが増加してきています。

私たちは、このような子どもたちをサポートするために、熊本大学生64名と教師14名で支援活動を行っています。また、生活困窮の世帯の食育支援のために「大江子ども食堂」も開設しています。

また、昨年の人吉豪雨災害に遭った子どもたちのために、月2回の子ども支援活動「学生災害支援ボランティア」も設立しました。当事業団は、多くの人たちのご協力と寄付により、活動が支えられています。

学習支援センター設置箇所

大江本校・水前寺校・健軍校・長嶺校・清水校・駅前校・人吉校 (7校)

各地区にこれからも子どもたちの居場所を創っていきたいと考えています。どうか、みなさまのご協力をお願いします。



人吉災害支援活動の子どもたちの様子

---

特定非営利活動法人  
熊本子ども囲碁普及会

熊本子ども囲碁普及会は、一人でも多くの子どもたちに囲碁を知ってもらい、楽しんでもらうことが、郷土熊本、そして日本の将来を担う子どもの健全育成につながるという理念のもと、熊本県内12の子ども囲碁教室を中心に普及活動をしています。

皆様からいただいたご寄附は、県全体の子どもを集めた交流囲碁大会の開催や、幼稚園・地域公民館での囲碁教室への講師派遣、小学校の放課後児童クラブで囲碁を教える活動などに活用させていただきます。



交流大会で対局を楽しむ子どもたち

---

NPO法人  
ガット

ガットは、子どもの健全育成を目的に、(1)学校図書館に関連する支援事業と(2)子どもの学習・文化等に関連する支援事業を行っているNPO法人です。

(1)では、おはなし会の開催(年2回、親子向け)、読書会(月1回、大人向け)の開催、学校図書館のリニューアル、講習会(年1回、学校の先生向け)を行っています。(2)では、令和4年4月からガット事業所において、不登校児童生徒の学習・文化等指導教室(月～金曜)、経済的困難な状況にある児童生徒の学習・文化等指導塾(毎週土曜)、不登校児童生徒の親のためのコミュニケーションカフェを運営します。

みなさまのご支援で、より利用しやすい体制を整えたいと思っております。温かいお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。



ガット事業所

---

NPO法人  
子育て支援ワーカーズペペペらん

1990年の設立以来「子ども・ことば・こころ」を柱に活動をしています。子ども時代の絵本や昔話との出会いは、子どもの想像力、情操を豊かにしてくれます。その出会いには、大人がおおいに関わらなければなりません。ペペペらんは、絵本やおはなしの世界の扉を、おしあけるお手伝いをします。

子どもたちが「ことば」に心を寄せることができるよう、子どもたちの健やかな成長を願い、絵本や昔話、わらべうたを通して、子育てを支援しています。

ペペペらんは、宇宙船の名前です。子どもたちをのせて、おはなしの世界へ飛び立ちます。



おはなしの世界を楽しむ親子